

小学校版

理科と社会科の授業で行う

読書

み解く力
の育成

自分の力で読み、学びに向かうために！

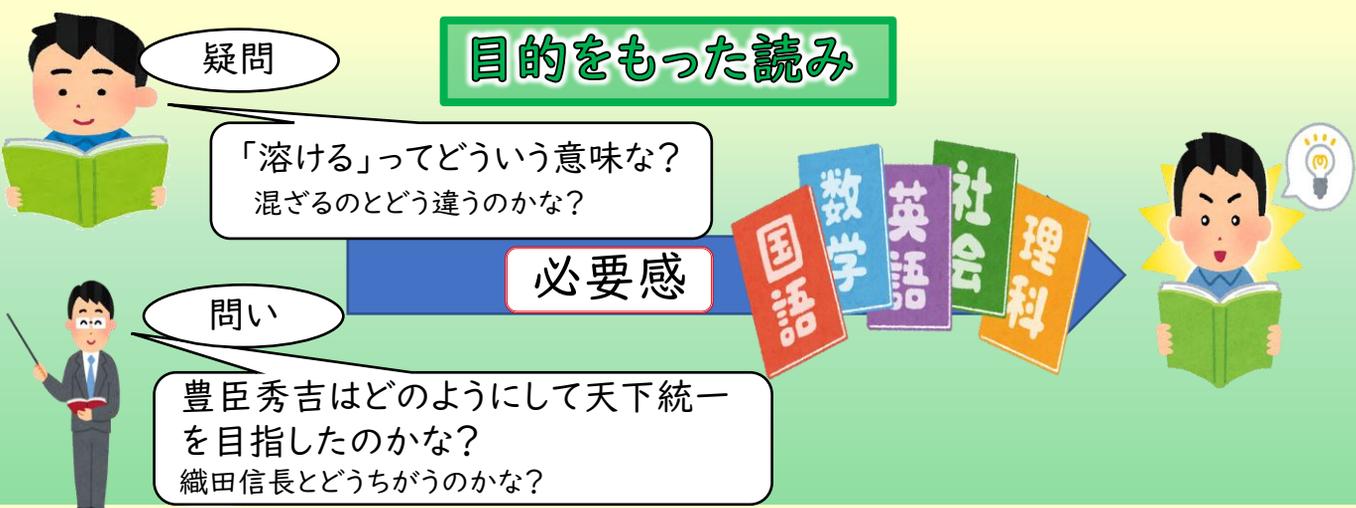
<読み解く力とは>



ポイント

「読み解く力」は、社会に出た時に自分の力で学び続けるための基盤となる力。

<読み解く力を高めるための2つの「読み」>



文字言語や資料から自分の力で情報を取り出し、構造化して活用する技能を身に付ける……Society5.0を生きるための力

読み解きチャレンジ

教科書を読んで答える問題をGIGA端末で出題

必要感をもって教科書を読む「目的をもった読み」

東国武士の騎馬団(きばだん)をうまく使い、平氏との戦いを進めたといわれる人物は誰ですか。

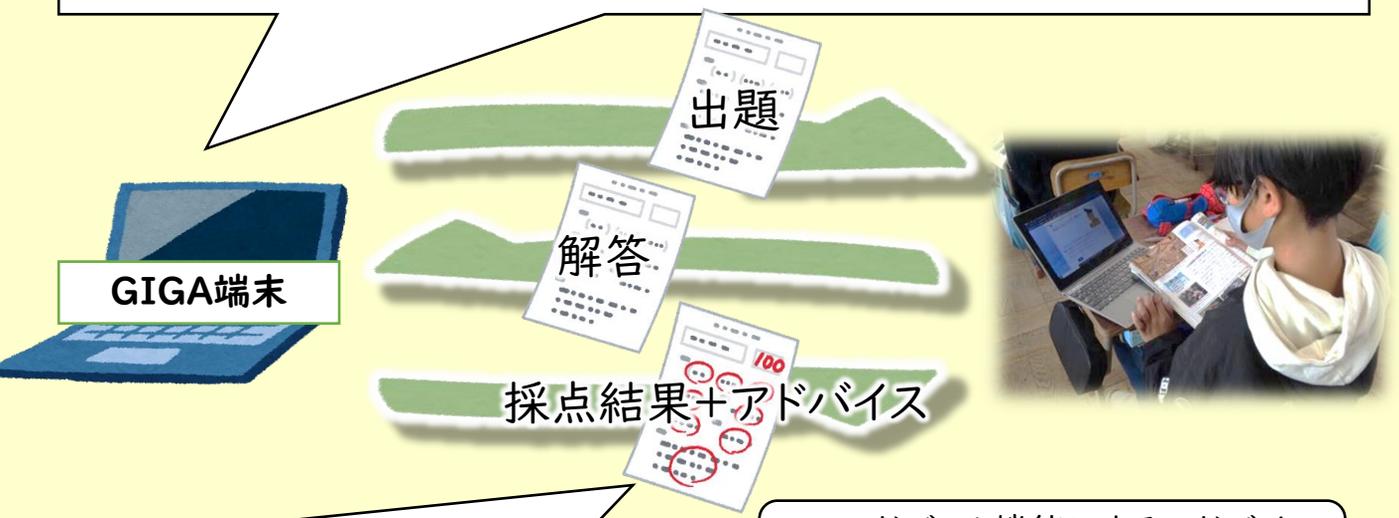
- 源義家(みなもとのよしえ)
- 平清盛(たいらのきよもり)
- 源義経(みなもとのよしつね)
- 源頼朝(みなもとのよりとも)

人物名や用語を答える問い

グラフや年表、文章を読み取って答える問い

織田信長がしたことを説明している、教科書 p.70から、読み取れないものはどれですか？

- 豊富な資金をもとに、大量の食糧や軍船などの武器をそろえた。
- 堺などの商業都市を支配したことで、豊富な資金が手に入るようになった。
- 桶狭間の戦いで大軍の今川氏を破り、武力による天下統一に向けて動き出した。
- 有力な大名をたおしたり、将軍の足利氏を京都から追放して室町幕府をほろぼしたりして、勢力を拡大した。



源義経 (みなもとのよしつね) ✓

平清盛 (たいらのきよもり)

源頼朝 (みなもとのよりとも)

フィードバック:
教科書p49の資料④で確認してみよう。ちなみに、源頼朝はどんな人物だったかな？ p48を読み直してみよう。

ポイント

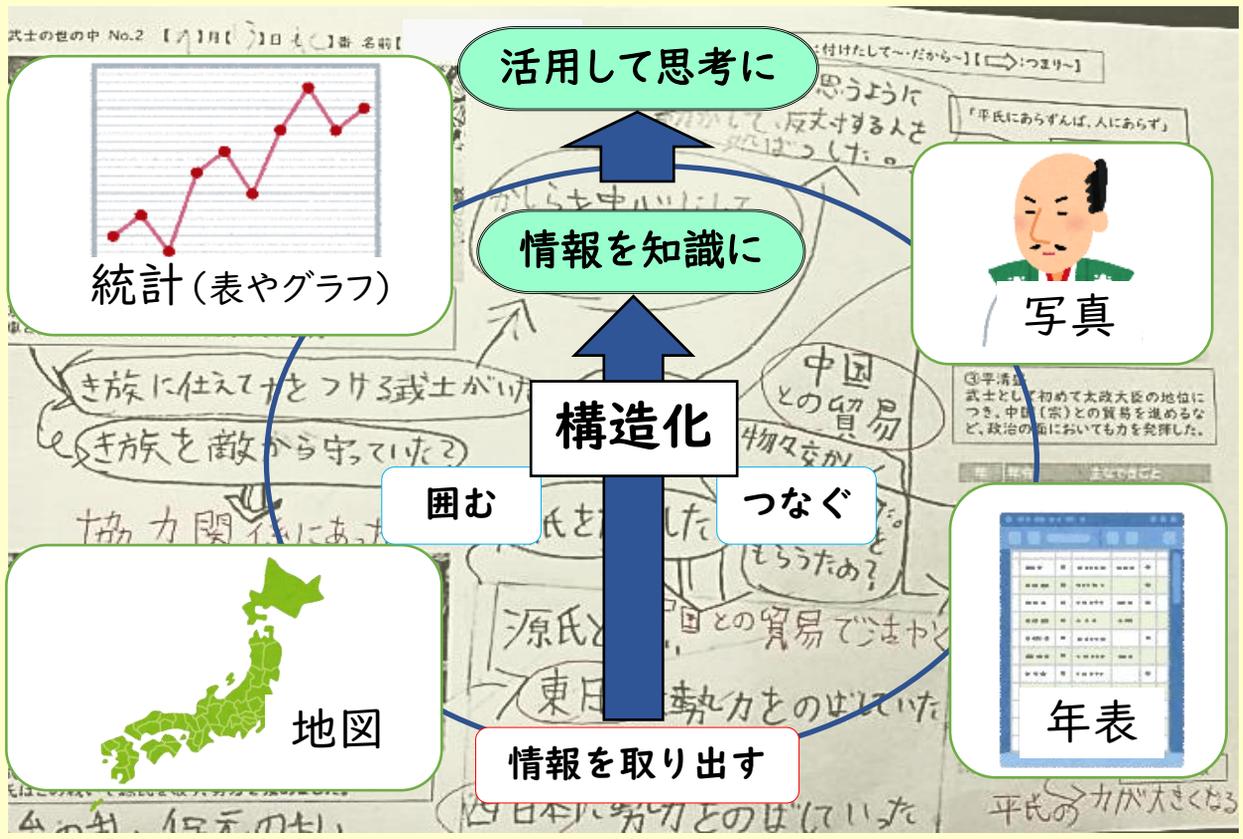
つまづきが予想される語句や、着目してほしい資料を基にして問題を作成することで、調べ学習の時に自分で情報を取り出しやすくなる。

学びマップ

取り出した情報を構造化し、考えをつくるワークシート

確かめよう、もっと知ろうと読み返すときに行われる「思考を伴う読み」

取り出した情報相互の関係を捉え、囲みや矢印などを使って構造化する



ポイント

指導者の役割

児童の様子を見取り、学びを進めることができるように支援を行う。

手順の掲示

学級全体に望ましい取り組み方を紹介
個々の記述内容の価値付け

『学びマップ』ガイド 情報の整理マスターになろう!!

見つけた情報を整理して、自分の考えをもてるようにする
→情報をつなげて考えてみよう!!

- 学習問題の確認
- 資料や教科書から情報を取り出し、
学びマップに書き出していく
- 例を参考に矢印などで整理する
 - 分かったこと・分かること(事実) + **自分の考え**
 - 他の資料との関連
 - 自分で書いたことは黒字
 - 人から教わって書いたことは赤字



「調べる」「使う」「修正する」

情報を取り出し、それらを活用して考え、言葉を正確に使って表すことができるような学習のステップ

自分の考えをもち、筋道立てて説明し合う姿

調べる

GIGA端末を活用し、意味を説明できない語句を調べて蓄積



言葉の意味	言葉の意味
(れい) 日光	太陽の光のこと。
日なた	日光の当たる所のこと。
日かげ	日影の落ちること。
向き	北、南、東、西など方位に当たって向きを定めること。
取り入れる	取って中に入れること。
振り返り	思い出しのくらしのこと。



- ・教科書を自分の力で理解
- ・考察や振り返りで蓄積した語句を活用

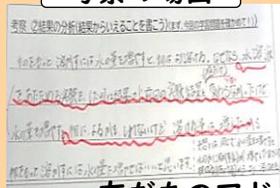
修正する

説明し合う・気付く



- ・語句が正しく使えているか
 - ・筋道立っているか
- の視点で教科書を活用しながらアドバイス

考察の場面



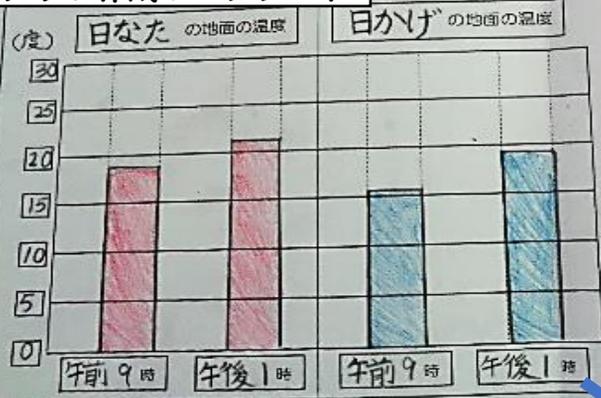
振り返りの場面



友だちのアドバイスをもとに、より正確な説明へと修正

使う

グラフ作成ワークシート



図表を自分で作成する活動を通して、図表の読み方を習得

論証フレーム

学習問題 日なたと日かげの地面のあたたかさは、どのようなちがひがあるのでしょうか。

しゅちよう(けっかから)いえること。問題の答え)

日なたの地面の温度は、日かげの地面の温度より高いです。

学習問題に対する自分の考え

けっかのせつめい
日なたの午前9時(9時)は20度で午後1時は22度でした。日かげの午前9時(9時)は15度で午後1時は18度でした。

・観察し、絵や写真で記録

・実験の結果を表やグラフ、絵、写真で記録

記録を解釈し、自分の言葉で表現

観察実験から取り出した情報を活用し、考えをつくり、根拠を明確にして筋道立てて説明

ポイント

教科書の文章や資料を自分の力で読み取り、得た情報や知識を活用することで、体験的な学びの質が向上する。

<児童の記述より>

文章を読み意味や間違っているところを見つけることで読む力がついた。

資料と資料を読み比べて関連付けて考えることができるようになった。

自分たちで考えた結論とかを、教科書を見ることで、自分たちの意見と比べたり、より詳しく説明できるようになった。

<研究協力員より>

実験の結果が分かる前に教科書を見たら、子どもたちのやる気が下がると思っていたが、「やってみないとわからない」という意識で教科書を活用しながら授業に参加していた。

文章だけに目がいていたのが、年表や写真資料まで見るようになって、資料を見る視点が広がった。読むことが苦手だった児童が、教科書を読み、考える姿が見られた。

ポイント

どの教科等でも自分の力でこうした学習活動を繰り返し行うことで、社会生活に必要な多様な資料を「読み解く力」が身に付く。

発行 令和6年3月

発行元 京都市総合教育センター 研究課・カリキュラム開発支援センター
〒600 - 8023

京都市下京区河原町通仏光寺西入ル

TEL 075 - 371 - 2705

FAX 075 - 353 - 4851

成果物や論文はこちら



研究課HP

